

教育委員会定例会会議録

1 日 時

平成27年12月14日（月）

開会 13時30分

閉会 15時34分

2 場 所

教育委員室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員 前田光久委員長、森脇健夫委員、岩崎恭典委員、柏木康恵委員、
山口千代己教育長

欠席委員 なし

4 出席職員

教育長 山口千代己（再掲）

副教育長 信田信行、次長（教職員担当）木平芳定、

次長（学校教育担当）山口顕、次長（育成支援・社会教育担当）中嶋中、

次長（研修担当）中田雅喜

教育総務課 課長 長崎敬之

教職員課 課長 小見山幸弘、班長 早川巖、班長 加藤真也、

主幹 山北正也、主幹 奥山充人

特別支援教育課 課長 森井博之、特別支援学校整備推進監 山口香、

主幹 谷口峻隆

保健体育課 課長 阿形克己、班長 横山正吾、

指導主事 山本敏之、指導主事 後藤大介

5 議案件名及び採択の結果

件 名	審議結果
議案第37号 職員の懲戒処分について	原案可決

6 報告題件名

件 名
報告1 新設特別支援学校の校名について
報告2 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について
報告3 平成27年度三重県優秀選手・指導者表彰について
報告4 平成30年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案」について

7 審議の概要

・開会宣言

前田光久委員長が開会を宣告する。

・会議成立の確認

全委員出席により会議が成立したことを確認する。

・前回審議事項（平成27年11月20日開催）の審議結果の確認

前回定例会審議結果の内容を確認し、全委員が了承する。

・議事録署名人の指名

柏木委員を指名し、指名を了承する。

・会議の公開・非公開の別及び進行の確認

議案第37号は人事管理に関する案件であるため、報告1は最終的な意思決定の前提となる途中段階の審議内容の報告であり、公開することにより校名の正式決定までに県民等に誤解と混乱を生じさせるおそれがあるため、非公開で審議することを決定する。

会議の進行は、非公開の議案第37号を審議し、非公開の報告1の報告を受けた後、公開の報告2から報告4の報告を受ける順番とすることを決定する。

・審議事項

議案第37号 職員の懲戒処分について（非公開）

教職員課長が説明し、委員審議のうえ決裁の結果、全委員が承認し、本案を原案どおり可決する。

・審議事項

報告1 新設特別支援学校の校名について（非公開）

特別支援教育課長が説明し、全委員が本報告を了承する。

・審議事項

報告2 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について（公開） （阿形保健体育課長説明）

報告2 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について、別紙のとおり報告する。平成27年12月14日提出 三重県教育委員会事務局 保健体育課長。

1ページをご覧ください。調査の概要について、実施期間、27年4月から7月末まで、対象が小学校5年生、中学校2年生の全生徒が対象ということです。調査事項は、実技に関する調査が握力から始まり、小学校で8種目、中学校では選択になりますが9種目、それと質問紙調査、学校に対する質問紙調査、各市町教育委員会に対す

る質問紙調査ということをごさいます。

Ⅱでは、調査学校数、児童生徒数について示させていただきました。なお、お手元にあります結果報告書も、今後、ページをお示ししながら合わせての説明とさせていただきます。

2ページをご覧ください。2ページには小学校5年生、3ページには中学校2年生の状況を示させていただいております。まず小学校、体力合計点による全国との比較ということから、男女とも全国平均よりは下回っておりますが、その差は男子が0.24ポイント、女子は0.53ポイントと、調査開始以来、最も縮まりました。セルでいいますと水色のところをごさいます。

2つ目として、種目別による全国との比較、黄色のセルをご覧ください。男女とも握力、長座体前屈などの種目は全国平均を上回り、合計で16種目中8種目が上回っております。昨年度との比較です。今度は赤の上矢印、白抜きの下矢印をご覧ください。体力合計点は男女とも昨年度を上回っています。種目別で見ますと、男子は握力、上体起こしなど、女子は握力、上体起こし、反復横とびなど、合計16種目中13種目が昨年より上回った結果となりました。

続いて、3ページの中学校の部をご覧ください。体力合計点と全国との比較です。男子は調査開始以来、初めて全国平均値を0.16ポイント上回っています。女子は全国平均値を0.33ポイント下回っていますが、その差は、小学校同様、調査開始以来、最も縮まっています。

種目別に見る全国との比較、再び黄色のセルをご覧ください。男子は長座体前屈、反復横とび、立ち幅とびなど、女子は反復横とび、ハンドボール投げの18種目中6種目が上回っています。昨年度との比較です。赤の上向き矢印、白抜き下矢印をご覧ください。種目別に見ると、男子は9種目すべて、女子は上体起こし、長座体前屈、反復横とびなど、合計で18種目中15種目が昨年を上回った結果です。

4ページをご覧ください。折れ線グラフですが、先ほど説明申し上げているとおり、全国との差が最も縮まったというところが、このグラフから見てとれます。

なお、平成23年は東日本大震災、22年、24年は抽出調査であったため、グラフでの比較からは除外しました。①では20年度から27年度の体力合計点の比較、そして、②では27年度における本県の体力合計点と全国平均値の比較を示させていただきました。

5ページをご覧ください。報告書は20ページから55ページですが、概要では、特徴あるところをピックアップしました。まず、児童生徒質問紙調査の結果からです。「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対して、26年度から27年度の変化を、そこに割合で示させていただきました。小学校男女、中学校男女ともほぼ同程度の状況でございます。校種や男女の別にかかわらず、「運動やスポーツをすることは好き」の集団は、それ以外の集団に比べ、体力合計点が高い傾向であることが下の表で見てとれます。真ん中の赤い線が全国平均値であって、それぞれの質問の対象群がその平均値、例えば小学校5年生の男子でいきますと、「好き」と言った者の平均値は、三重県の平均値で55.7点を取っているというようにご覧ください。なお、全国と比較しますと、「好き」、「やや好き」、「ややきらい」、「きら

い」の境目に目を向けますと、三重県の子どもたちは全国と同程度であることがうかがえます。

6ページをご覧ください。同じく質問紙は、「運動やスポーツをすることは得意ですか」のところで、昨年度と比較しますと、各部門とも、やや減少の状況ではありません。校種や男女の別にかかわらず、「運動やスポーツをすることは得意」の集団は、それ以外の集団に比べ、体力合計点が高い傾向も見られます。また、先ほどと同様、「得意」、「やや得意」、「やや苦手」、「苦手」の境目を全国と比較しますと、本県の子どもたちも得意であるかどうかということでは、同様の傾向が見られます。

7ページをご覧ください。「学校の運動部や学校外のスポーツクラブに所属していますか」の問いで、小学校5年生は昨年度からの比較を見ますと、同程度であります。小学校女子のところは昨年度46.4%が48.2%と上昇している傾向です。校種や男女の別にかかわらず、これも学校の運動部あるいは地域のスポーツクラブに所属している児童生徒の体力合計点が高い傾向にあることと、中学校のほうの合計点との関連を見ていただきまして、地域のスポーツクラブに入っている子どもたちは、更に専門的なスポーツに取り組んでいることから、運動部の生徒たちより、体力合計点は平均値より高くなっています。全国と比較しますと、小学校ではやや全国より低いですが、一方、本県の中学校の運動部活動の加入率は、ご覧のとおり全国より高い状況であります。

8ページをご覧ください。「朝食は毎日食べますか」という質問ですが、平成26年度にはこの質問項目はありませんでしたので、平成25年度から27年度の数値の変化をここに示させていただきます。小学校男女、中学校男女とも、やや減少傾向であることがうかがえます。この朝食摂取と体力合計点の関連も、ご覧のとおり、毎日朝食を食べる児童生徒は体力合計点が高い傾向であります。なお、全国との比較をしますと、「毎日食べる」、「食べない日もある」というところと、「食べない日が多い」、「食べない」者との境目を比較しますと、全国と同様の傾向です。さらに、「食べない」という回答の分ですが、小学校5年生の男子で見ますと0.5%、女子では0.3%というように、調査対象人数からこの実人数を割り出してみますと、小学校男子では40名程度、小学校女子では24名程度、中学校男子では97名程度、中学校女子では67名程度が「食べない」と回答していることから、家庭への働きかけ、あるいは、学校における食育の推進への、てこ入れをする必要があると考えています。

9ページをご覧ください。定刻でどれぐらい寝ているかということで、先に体力合計点の関連に目を向けていただきまして、「6時間未満」と「6時間以上8時間未満」、あるいは「8時間以上」という境目の中で、体力合計点の差異が見られることから、上に戻っていただきまして、6時間以上寝る者の割合を、これも26年度質問紙になかったので、25年度と比較しました。小学校男女、中学校男女とも増加に転じてきております。校種や男女にかかわらず6時間以上睡眠をとることは、体力に相関があることから、一定の休養など、生活習慣を整えることが大切と考えております。

10ページをご覧ください。10ページ、11ページは、今年度新しく盛り込まれた質問です。10ページのところでは、ゲームに興じる時間はどうかということです。

これも体力合計点の関連のところにもまず目をやっただきまして、「1時間以上3時間未満」と「3時間以上5時間未満」のところにも線を引きますと、一定、体力合計点、中学校女子は近いところですが、境目が見られます。小学校の男女で平日にテレビゲームを3時間以上する児童生徒は、体力合計点が低い傾向であるということ、また、中学校男女でも5時間以上する生徒は、より低い状況であります。三重の子どもたちは全国と比較しますと、ゲームに興じる時間というところでは、多少多いような傾向があります。

続いて、11ページは「メール、インターネットをしますか」ということで、これも3時間の境目を見てみますと、3時間以上する児童生徒は体力合計点が低い傾向が見られます。そして、三重の子どもたちは、メール、インターネットをしている状況については、全国よりはやや低い状況であるということです。

12ページをご覧ください。授業についての問いです。「体育・保健体育の授業は楽しいですか」との問いに対して、「楽しい」、「やや楽しい」までの割合を見ますと、26年度、27年度では大きな変化はありません。「体育・保健体育の授業は楽しい」と考える集団は、体力合計点が高い傾向があり、三重の子どもたちは、先ほど申し上げた境目を見ますと、中学校で顕著に体育の授業が楽しいと答えている子どもたちが多くなっています。

13ページからは学校への質問紙ですが、この質問は昨年度と少し変わりました。26年度に、今年5年生の子どもたちに対して「体力・運動能力の向上のための目標を設定しましたか」ということをございます。全国と比較しますと、小学校、中学校ともに低い状況であります。なお、26年度の質問紙では「学校全体で目標設定しましたか」という質問がございました。この中で、中学校では34.6%でしたが、本年は42.2%、特に比較までは至りませんが、増加しているところです。目標設定の次に下の段は、「体育・保健体育授業以外に運動時間を確保する取組を行いましたか」というところです。中学校では全国よりは多い状況であります。また、平成26年度の質問項目は、「学校全体で運動に取り組む、確保する時間を取りましたか」ということで、小学校では69.9%、中学校は44.6%でありましたが、今年度は増えていることから、本年の1月から取り組んでいる元気アップシートなどで、各学校の目標設定、1学校1運動に取り組むことが、一定、成果が見えているというふうにかがえまます。

14ページをご覧ください。先生方が「授業の冒頭で、めあて・ねらいを児童生徒に提示しているか」ということです。そして、次の質問は「振り返る活動をしているか」ということです。いずれも小・中学校とも低い状況であります。また、今後、更に三重の授業改善を進めていかなければいけないと考えておりますが、昨年度の数値、それぞれの項目を比較しますと、徐々に増加している状況があつて、こういったことも体力結果の中に、幸いにも結びついているのではないかとということです。

15ページをご覧ください。「体力テストを何年間実施していますか」ということで、昨年度と比較しますと、当然、継続実施を働きかけておりますので、小学校47.3%から63.6%、中学校では91.7%が93.8%ということです。小学校では全国と比較しますと、まだまだ低い状況であります。年を追うごとにこれが5

年以上の学校は6年以上の層にいきますので、その赤のところの境目を見ますと、ほぼ三重県の小学校でも赤と、つまり2年と今回が初めてという境目を見ますと、継続実施も定着しつつあるということです。

最後に、16、17ページです。子どもたちの1週間の運動時間と体力の比較です。小学校の男子をご覧くださいますと、1週間に60分未満の生徒が6.4%、全国は6.6%で、今回、昨年度と比較しますと、小学校で取組の効果が見られてきています。中学校は昨年度も同様で、1週間に60分未満という数値が全国よりは低くなっておりましたが、小学校では「1学校1運動取組」が浸透してきているのではないかと考えます。調査を実施した子どもたちの人数からその割合の実数を計算していきますと、小学校の男子では6.4%、500人余り、そのうちの45.4%ですから、全くゼロ分というのは小学校男子で234人、このように換算しますと小学校女子では330人、中学校男子で285人、中学校女子では二極化、女子の運動離れなどの課題があり、900人程度が全くしないという状況です。

この結果を基に、今後の取組に役立てていきたいと考えています。

【質疑】

委員長

うれしい報告をいただきました。

森脇委員

全体の印象としては、学力も上がったし、体力・運動能力も上がったということは、両者がバッティングするわけではないと。むしろ、相乗効果というか、相即的な動きを示しているのではないかと思います。だから、学力ではおそらく学校が動いていますね。それから、教師の意識が変わってきたと。そこが学力が動いた原因だと思っているんですが、この体力・運動能力の伸びというのは、いろいろありました。めあてとか振り返りとかいうお話もあったし、一体何がその導因になっているかということ、どう捉えていらっしゃるかお聞きしたいと思います。

保健体育課長

前段でお話しいただいたとおり、学力との相乗、相即的な動きを示しているということですので、私どもも、学力での動きに乗っかっていっている感じがあって、目標設定とか授業の振り返りといったところです。教師の意識が変わったということは、私たちの仕掛けの中でも、過日からの定例会でも報告させていただいたとおり、全小学校、全中学校の先生方に昨年1月にお集まりいただいて、こういうテスト調査で三重の現状はこうですと示すと、「ああ、そうだったんだ」というのが、そのときの先生方の反応の主なものでした。そういったことから、「じゃ、しっかりやろう」と、つまり、この調査に関して、ただ測定して報告して結果が出たというような態勢であったのが、すべての小学校、中学校の先生にお会いして、そういったことを示していくと、「ああ、そうか、三重の子どもたちの力を出すために頑張ろう」という力が湧き出てきたんじゃないかと。これはイコール、教師の意識が変わってきたと感じます。

重ねての話ですが、そのときの研究協議会のグループ別分科会で、6～7人でのディスカッションでは非常に熱心にお話をされていました。ただ、それを今度、実ある

ものにするためにも、そのお集まりいただいた先生方が、それぞれの学校でそれを伝え、それが動きになっていくということ、学力と同様、学校が動き出した、教師の意識が変わってきたというふうに認識しております。

柏木委員

これを見せていただいて、三重県もやればできるんだという感じが、すごくひしひしとしてくる中で、私は、一番問題だというのは、運動することが嫌いだという子どもたちを、いかに好きにしていこうかということと、嫌いでいたら、この先、いろんなことを乗り切れないんだと、子どもたちに運動することの大切さをしっかり低学年から教えてあげてほしいと思います。体力がなければ、その後、成長していく中でもいろんな面ですんどい部分が出てくる、そういうことを子どもたちにしっかり、数字だけではなく、できないなりに、みんな頑張っていこうということを子どもたちに教えてあげたいと感じました。

あと、もう1点は、これだけ質問紙を体力のほうでもするのであれば、この中にあなたは勉強が好きですかというのを入れてほしいと思いました。勉強が好きなのと体力があるのと相関関係があったりしたら、また考え方も違うかなと思ったので。提案というか、三重県独自でするわけにはいかないのが無理ですが。

次長（育成支援・社会教育担当）

先ほど学力と体力の関係については、教育長からも相関も含めて変化を追っていくチャレンジもできるんじゃないかという話をいただいており、今、学力のほうとも検討を進めようというところです。

それと、柏木委員がおっしゃっていただいたように、まず、運動することが好きだということが非常に相関もありますので、特に三重県の場合につきましては、25年度、26年度との比較だけではなく、それ以前からの比較もして、好きだという子どもが徐々に増えております。それが、課長からも説明がありましたが、やはり体力のテストなり得点の上昇につながっているということなのかと、そういう分析もしております。

岩崎委員

よかったというのが第一印象にあります。見せ方の問題として、3ページのところで体力合計点の中学校2年生の男子は、差は0.16というのは、どうしてもこの色に塗らないかんものなのかなと、まず思います。下回った場合に青ざめるのかなとか。上になっているのに青で塗る必要は、必ずしもないんじゃないかと思って見ておりました。

森脇委員からのご発言を受ける形になりますが、概要版の14ページのところで、「めあて・ねらい」を全国と比べると三重県はまだ「あまり取り入れてない」、「全く取り入れてない」というところが0.3%あるんですね。振り返りについても、全国とかなりまだ差はあると見てもいいのかもしれない。そうすると、まさに森脇委員がおっしゃったことをダメ押しする観点からいうと、こういうふうなめあてとか振り返りのことをちゃんとやっていないところは、体力的にはどうなのかというクロスはできないのかなと思いました。

次長（育成支援・社会教育担当）

ご指摘のとおり、授業の改善というところは、まさに私どもも、逆に言えば伸びしろがあるという理解をしています。それと、学力のほうもそうでしたが、学校質問紙による問ですので、先生方は提示している、しかし、受け手側のほうがそう思っていないという実態もありますので、そういったことも含めてアプローチをしていきたいと考えています。

岩崎委員

それはぜひお願いしたいです。

委員長

私から2点。前の委員がおっしゃったこととダブるかもしれません。あえて辛口というか、違う見方のことを。現場の先生方が悲鳴を上げてみえないかと。あれもこれも、数値管理、目標管理ということで、現場の先生方はこの結果について、どう思ってみえるのかと、一回現場の先生の声も聞いてみたいと。やったからできたのか、この形を出すのに相当苦勞したとか、生の声をどこかで聞いてみたいと。

保健体育課長

今年度の結果は、まだ学校にはいってないんです。しかしながら、我々保健体育課でも、現場が悲鳴を上げないかということは、こういったことが動き出すときに、一番の視点として置きました。そのため、ご自身の学校の結果や目標設定等の成果が検証できる「元気アップシート」というツールを提供しています。そして、その中に体力向上の要素を示すことができるようすすめています。研修会では、体力向上について皆さんが本当に簡単に、あるいはスムーズに入れるようなことを一緒に考えましょうというようにアプローチしています。例えば、各学校で体力テストシーズンに、グラウンドに50m走の走路を描いておいたらどうですかとすすめています。それは描くだけでいいので、子どもたちはそのシーズンになると、業間で走り回っていたというようなこと。ある学校から聞いたことは、体力テストをすすめていると、近所のおじいさんが校長のそこへ寄ってきて、「家の孫な、20mシャトルランというがあるので、家の前に20m測ってくれというので、なんやそれと孫に聞いたら、行ったり来たりするテストがあるのやと。」だから、答えになるかどうか分かりませんが、身近にスムーズに取り組めるようなことを学校にすすめてきました。現場の声をお聞きになりたいということで、しっかりと今年度の結果についての評価なりを聞き取っていきたいと思います。

委員長

本音を一回先生方に聞いてみたいなど。大変は大変でいいんです。仕事はもともと大変なんです。目標なりがあってやっていくほうが楽しいというか、やりがいも出てくると思いますので。せっかくこういう、いい成績が出てきたということは、次のステップへの後押しになるような活かし方をしてもらえると、現場の先生方も、より励みになるのではないかと思います。

僕らみたいな仕事と、こういう学校の仕事は職種が違いますので、一概に数値設定が本当のところはいいとは思ってないんです。ただ、子どもたちにも教えてみえる先生方に一つの指標であることは事実だろうと思いますので、その自信につなげていっ

てもらえると、それが最も大事ではないかと思っていますので。シナジー効果といえますか、学力と体力、これは私、何となく雰囲気は分かるんですが、それを信じさせてくれるところまで、まだ行ってないと。本当はそうだろうと思います。信じたいと思っているんですが、そうだと自分自身が信じ切れてしゃべれるところまで、まだ実感として来てないのですが、ぜひとも実感にしてもらえるとうれしいので、よろしくをお願いします。

教育長

報告書の50ページに、「ダンスの授業でどのようなことができたと思いますか」というのがありますが、入学からまだ行ってないというのは、中学校2年生がまだ高いです。将来、役に立つかとか、体育の授業で学習している内容はとか、今日は概要でしたが、概要のほうへ入れたほうがいいのかもわからない。自分のところのできてないものを、例えば、ほかに68ページの児童生徒が日常の運動や遊びとして行えるような手立てを講じてますかとか、あるいは、外部人材を何人活用していますかとか、70ページのあたり、このあたりは、はじめのほうの概要が全国との開きが大きいところだったのかも分かりませんが、これから注力していかなきゃならないようなところを、もう一度、あるいはできてないところ、さっきのダンスなどはできてないですね。入学してまだ一回もやっていないというのはまずいかと思って。何かありますか。

保健体育課長

質問紙へ回答したのは、きっと4月、5月ぐらいで、年間の指導計画の中で、どこに配置しているのかということになります。学習指導要領では、中1、中2の範囲でやるということです。学校体育実態調査では、すべての学校で実施しています。

委員長

どこかの教育委員会が教育委員会ダンスでしたか、考案してやりましたね。テレビの放送などで。なかなかおもしろいことをやるなと思って見てました。

ということで、今後もよろしくお願いします。よろしいですか。

—全委員が本報告を了承する。—

・審議事項

報告3 平成27年度三重県優秀選手・指導者表彰について (公開)

(阿形保健体育課長説明)

報告3 平成27年度三重県優秀選手・指導者表彰について

平成27年度三重県優秀選手・指導者表彰について、別紙のとおり報告する。平成27年12月14日提出 三重県教育委員会事務局 保健体育課長。

1ページをご覧ください。この賞は、県内の中学校・高等学校等の生徒及び指導者が、国民体育大会をはじめとする全国規模の大会において優秀な成績を収め、県内学校スポーツの範となったことに対して、三重県優秀選手・指導者表彰要領に基づいて、教育長が表彰します。

対象となる大会は、(1)から(8)のところですか。特にその下、本年度は次の基準を満たす生徒に特別賞を授与するということで、優秀選手・指導者表彰の中からこ

ういったことを取り組みました。(1) 当該年度、27年3月から28年2月の間に開催された大会のうち、複数の大会で個人・団体(学校対抗を除く。)で優勝した生徒。学校対抗というのは、種目でたとえば陸上で各種目の上位を得点化して何々高校が表彰されるというようなものです。それは除くということです。(2) また、この大会のうち、同一大会で個人・団体という、ある種目で個人も団体も優勝した生徒。

(3) 生徒が在学中にこういった大会で、2年生で優勝し、3年生で優勝したというような生徒、これらの生徒に特別賞を今年度、設けさせていただきました。3では、その特別賞被表彰者の一覧を示してございます。

3ページをご覧ください。1つ目、成國大志さん、いなべ総合学園高校のレスリングでは、27年度のインターハイと、風間杯第58回というのは高校選抜大会で、両括弧の中でその大会開催月が示してあります。というように、次には奥野春菜さん、レスリング、川村正輝さん、ウエイトリフティング、小野平伍さん、ウエイトリフティング、柳川友章さん、ウエイトリフティング、石井未来さん、ウエイトリフティング、島袋将さん、鈴木保貴さん、橋川泰典さん、大谷拓矢さん、これはテニス団体などの優勝も入っています。そして、最後に村木亮太さん、陸上競技、この11名の方々を特別賞とさせていただきます。

5ページをご覧ください。国民体育大会、5ページから6ページにわたってです。この中で優勝しましたのは、重ねての報告ですが、個人の部、ウエイトリフティングでは川村正輝さん、小野平伍さんなど。そして、6ページにはウエイトリフティングで柳川友章さん、陸上競技で村木亮太さん。水泳では昨年度、中学生でこの賞を授与されました阪本祐也さんがこの対象です。

続いて、全国中学校体育大会では、残念ながら優勝の方はみえませんが、ご覧のような入賞者が対象でございます。

続いて、8ページ、9ページは、全国高校総体、インターハイです。学校対抗、先ほどから名前が何回か出ている川村正輝さんなどは、四日市工業高校に所属される方です。ご覧の川村正輝さんをはじめ、横山太偉雅さんまでが優勝あるいは2位、3位と入賞されましたので、四日市工業高校がウエイトリフティングの学校対抗で優勝されたというところです。次にアーチェリーをご覧くださいと、四日市四郷高校、アーチェリーは久野さんという指導者がここに配置されました。その中で、この上田紗安羅さんをはじめ4名の選手は、国体でも活躍しました。

続いて、個人の部は、重ねての説明で恐縮ですが、レスリングでの成國大志さんや奥野春菜さんなど、優勝された方がおられます。

次の10ページをご覧ください。真ん中が全国聾学校陸上競技大会で聾学校の男子三段跳の奥本将斗さんが入賞されましたことと、その下、全国盲学校野球大会、グラウンドソフトボール大会ですが、東海地区盲学校の東海選抜チームのメンバーとして、この3人の方が参加され、全国優勝を果たされたということです。

次の女子のウエイトリフティングは、インターハイ種目になく、高等学校女子ウエイトリフティング選手権がございます。インターハイと同様の大会として石井さんが優勝されております。

次、11ページ以降、裏面までは全国高等学校選抜・選手権大会、27年3月の前

年度の末ですが、そこでの入賞された方々です。優勝はソフトテニスの三重高校男子団体の優勝であったり、テニス、四日市工業高校の団体優勝など、以下、個人でも先ほど来、お名前が出てきています成國さんなど優勝された方々でございます。

本表彰式は、来年の1月7日、三重県勤労者福祉会館講堂で行います。

【質疑】

委員長

よろしいですか。

—全委員が本報告を了承する。—

・審議事項

報告4 平成30年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案」について（公開）

(阿形保健体育課長説明)

報告4 平成30年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案」について

平成30年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案」について、別紙のとおり報告する。平成27年12月14日提出三重県教育委員会事務局 保健体育課長。

1ページをご覧ください。これまでの経過は、6月から9月まで募集期間を設け、最終選考を11月6日に行いました。そして11月20日に開催されました三重県準備委員会で案を確定し、このことを全国高等学校体育連盟に申請し、12月2日に承認を得たところです。この表彰対象の方々には、本年12月25日にその表彰式を行います。3でご覧のとおり、三重県から岐阜県まで8,139点の応募がありまして、参考に先催ブロックの応募作品数を示させていただきました。

まず、愛称ですが、3ページをご覧ください。「2018 彩る感動 東海総体」、四日市商業高校の水越粹花さんの最優秀作品と優秀賞等でございます。続いて、スローガンです。「翔べ 誰よりも高く 東海の空へ」、津市立橋北中学校の曾我萌々さんの作品と、以下、優秀賞等でございます。

5ページをご覧ください。最優秀賞は岐阜県立岐阜総合学園高校の近藤寛子さんです。ほか、優秀賞等の紹介でございます。

最後に、総合ポスター図案でございます。6ページですが、静岡県立富士宮東高校の福原花菜さんの作品です。

今後は、この総合ポスター図案をベースに、シンボルマーク・愛称・スローガンなどをレイアウトし、総合ポスターを作成していきます。それは1月に開催予定の実行委員会で承認をいただき、それから全国高等学校体育連盟に申請をして、ポスターが完成することになります。

【質疑】

委員長

ご意見よろしいですか。

このシンボルマークは当然1個だけできる。ポスターはこれだけですか。

保健体育課長

ポスターはその中で作っていくというのがその流れでございまして、1つになります。

委員長

何かもったいないなど、シンボルマークは1個でもいいけど、ポスターなんかは何種類かあってもいいのでは。

保健体育課長

あと、競技ごとのポスターも、市町の実行委員会など、あるいは各県で作成することになります。

委員長

それなら理解します。ほか、よろしいでしょうか。

—全委員が本報告を了承する。—